

平成16年度 奈良大学研究助成交付者一覧表

○奈良を中心とする研究

研究代表者	所 属・職 名	研 究 課 題
西 脇 二 一	現代社会学科・教 授	衛星データによる奈良地域の地形・地質判別基準の検証
上 野 誠	国 文 学 科・教 授	万葉文化論の基礎的研究－奈良を中心に－
鎌 田 道 隆	史 学 科・教 授	世界遺産都市奈良の観光開発と交通
深 石 一 夫	地 理 学 科・教 授	奈良盆地における気候特性
三 木 理 史	地 理 学 科・助 教 授	奈良盆地東縁および中部地域の地籍図収集および研究・調査

○その他の研究

研究代表者	所 属・職 名	研 究 課 題
中 川 寿 夫	教 養 部・教 授	硬熱ループ近似DS方程式に基づく熱ゲージ場理論の相構造・相転移機構の研究
永 井 一 彰	国 文 学 科・教 授	佛光寺蔵板木の研究
藤 本 寿 彦	国 文 学 科・教 授	現代日本のメディアと幸田文 －幸田文研究－
塩 出 貴 美 子	文 化 財 学 科・教 授	十巻本「高野大師行状図画」の研究
西 山 要 一	文 化 財 学 科・教 授	世界遺産の大気環境観測と大気汚染による損傷の防止の研究
芹 澤 知 広	現代社会学科・助 教 授	アジアの歴史的地域における文化遺産保存のネットワークについての予備的研究 －白川郷とベトナム・ホイアンを中心にして
尾 上 正 人	現代社会学科・助 教 授	世界遺産指定地域における保存活動とツーリズムの共存の実態に関する調査 －鹿児島県屋久島および岐阜県白川郷の比較社会学研究－
湯 川 隆 子	人 間 関 係 学 科・教 授	奈良大生におけるジェンダー認識の変容過程－本学『ジェンダー論』講義での教育実践効果－
卜 部 敬 康	人 間 関 係 学 科・講 師	観光地の災害復興に関する社会心理学的研究－有珠山噴火災害被災地を例として－

※所属・職名については、助成金交付時の現職

事業報告

平成16年度
公開講座概要

奈良大学総合研究所では、毎年、生涯学習教育および大学開放の観点から、また大学における研究成果の社会への還元方法の一つとして、「公開講座」を開催している。

本年実施した「公開講座」は、(1) 本学が企画・共催、(2) 研究機関が企画、(3) 自治体等との協力で企画、の3種類で行われた。以下、講座について紹介するが、開催日時・会場・講師および演題は、次頁以降に記載しているので、ご参照いただきたい。

【(1)に分類される講座】

〈1〉せいぶ市民カレッジ・第25回奈良大学文化講座

〈開講年〉1980年

〈テーマ〉奈良をメインにした話題

〈募集定員〉各回300名（5回） 〈応募者〉1,194名 〈受講者〉957名

8月7日

「飛鳥で最近出土した木簡について語る」

寺崎保広

発掘調査で土の中から掘り出される木の札に文字を書いたものが木簡。その中でも、年代の古い飛鳥時代の木簡は貴重である。今回は、最近発見された飛鳥・藤原京などの木簡を紹介しながら、以下のような古代史の問題を考えた。

1. 藤原京左京七条一坊の調査で出土した木簡から、大宝律令が古代国家にとって重要な画期となることを改めて確認した。
2. 飛鳥池遺跡出土の木簡から、7世紀後半の寺院に関わるものが多数を占め、寺院の実態を示す材料であることを述べた。
3. 石神遺跡出土の木簡から、「日本書紀」の記事の信憑性を確かめる、重要な意味をもつことを指摘した。

8月28日

幸田家の人々と奈良

藤本寿彦

明治の文豪、幸田露伴は小説「五重塔」で知られています。彼の娘・文はつねづね、幸田家の家計がこの作品の印税によって支えられてきたと感謝していました。塔に対する強い思い入れを抱いていた文は、奈良斑鳩の法輪寺三重塔再建の話聞き、やがて法隆寺付近の医院に間借りをし、時にはやりがんで材木を削ったりして再建運動の先頭に立ちます。彼女が塔の再建にたずさわった日々は、NHKのドキュメンタリー番組「新日本紀行 私の塔私のいかるが」に描かれました。近年、再放送されたこの番組の取材のため、文の孫娘・青木奈緒は法輪寺を訪れ、二十有余年を経てなお塔内に広がる松の香りに感動しました。娘の玉、そして孫の奈緒へと、幸田文が法輪寺で得た体験は受け継がれています。

9月4日

歴史を創った考古学者達

酒井龍一

考古学や歴史学は面白いものです。歴史上の「常識」が、新発見や解釈の変更などによって、その座を奪われることも多々あります。

例えば、C14年代法の測定で弥生時代の始まり年代が常識より「500年」も遡る見解が出たこと、飛鳥諸宮の候補地が大きく変更されたこと、法隆寺心礎の年輪年代が予想とは大きく違っていたことも、そうした事例です。

9月18日

『万葉集』の字余り

柳田征司

現代短歌や俳句では字余り句は普通に認められる。ところが、『万葉集』では、宣長が指摘したように一定の条件のもとでのみ許されている。どのような条件で許されるのか、また、それはなぜなのか、について考えてみたい。

10月2日

「地理情報システム(GIS)で見る奈良の歴史」

酒井高正

地図と地域情報をコンピュータで統合的に処理する地理情報システム(GIS)を利用すると、奈良の歴史的事象や景観はどのように見えるのであろうか、三次元GISによる景観表示のデモなどを取り入れて視覚的に紹介する。

〈2〉第4回世界遺産公開講座

〈開講年〉2001年

〈テーマ〉世界遺産に関する話題

〈募集定員〉各回100名(7回)

〈応募者〉1,556名

〈受講者〉717名

4月25日・29日

古都奈良のにぎわいと文化遺産

水野正好

『古都奈良と文化財』が世界遺産に登録され、いま奈良は喜びと饒わいで活気づいている。平城宮跡、東大寺、興福寺・元興寺、薬師寺、唐招提寺、春日大社、春日山原始林中遺産面積616.9ha、緩衝地帯1962.5haがその対象地となり、これらの遺産保護のための歴史的環境調整区域539haが付加されて全体を構成している。積極的な保護と活用が期待されている中、各対象の個性の強調が必要かと考える。平城宮跡は朱雀門について現在大極殿の復原工事が進捗中。遺跡と化して地上に全く遺構を見ない現状では、発掘調査の実施で地下に埋る遺構を発掘し、成果に基づいて着実に遺構整備することが望まれる。その復原過程が常々社会に問われ情報を流布することが望まれるであろう。東大寺は盧舎那大佛の二度にわたる罹災とその復興の歴史を行基や重源・道安・公慶上人の活動－わけても宗教的復興活動である「勸進」の姿で見ると今もある東大寺の蘇生維持のエネルギーがどこから生まれてあるかが判る。興福寺の場合は天皇や藤原氏の手で建立されるエネルギーが各時代を貫き氏の手で長く復興維持が果されるが、明治の廃佛毀釈の動きの中で僧の春日社への移動で宗教活動は衰微し、上地により寺坊地は塀まで壊され土地は国有化、結局僅かの伽藍地を除けば公用地として県庁、学校等の用地となり景観は一変、往時の面影を失い、一部は奈良公園と化し往時の興福寺を偲ぶ「よすが」を失った。元興寺は飛鳥寺の移建で誕生し宝徳年間まで堂々たる景観を保ったが、一揆で極楽坊以外の伽藍建築を焼亡、奈良時代の智光礼光法師の極楽感得の遺跡として、今日まで極楽坊が遺されてきた。奈良町の極楽信仰の支えあつての今日である。このように三寺は三様の歴史を描いている。世界遺

産として意義づける時、それぞれの文化財はその特色ある歴史を活かし個性化し、社会に訴えるべきであろう。個性を訴える世界遺産が息づくようになる時、始めて奈良も、歴史も、文化も息づき新しいエネルギーが生まれる。

5月16日

世界遺産研究における中心と周辺

－文化人類学からのアプローチ－

芹澤 知 広

最初に、「中心的な世界遺産はあるか?」、「世界遺産研究の中心はあるか?」という問題を参加者に提起し、世界遺産登録と世界遺産研究が、「ハード」(建築)から「ソフト」(社会)へ。「中心」(ヨーロッパ地域)から「周辺」(非ヨーロッパ地域)へと傾向を移していることを論じた。文化人類学のアプローチの特徴を説明し、白川郷と屋久島の環境と歴史、保存と活用の現状を具体的にとりあげて、世界遺産がもつ社会的・文化的側面の重要性を示した。

6月20日

紀伊山地の霊場と参詣道

浅 田 隆

世界遺産への登録がほぼ確実視されている段階で、「紀伊山地の霊場と参詣道」について、その霊場の成立の背景にある「役の行者」伝承を中心に話した。

「役の行者」伝承の初見である「続日本紀」やその後の「日本霊異記」「今昔物語」「三宝絵」などの伝承を比較すると共に、奈良県下各地に散在する伝承地を紹介し、信仰説話が形成される過程と神仏習合という信仰形態の成立過程、大峯山系と金剛・葛城山系の修験などをからめて概説した。

7月18日

世界遺産ガラパゴス諸島

－巨大なカメと小さな恐竜の島－

高 橋 春 成

ガラパゴス諸島は、博物学者チャールズ・R・ダーウィンがビーグル号で訪れ、のちに『種の起源』をあらわすことになったところとして有名である。ホット・スポットから噴き出る溶岩によって形成されたガラパゴスの大地は、最初は死の世界であった。そこに南米大陸からフ

ンボルト海流や鳥などに運ばれて植物や動物のバイオニアがやってくる。ガラパゴスに運よく到達する動植物はごくわずかであったが、彼らは新しい環境に適応し進化をとげていった。ガラパゴスゾウガメやイグアナたちである。

8月8日

万葉びとの「洗濯」は・・・？

上野 誠

奈良の世界遺産の特色は、創建当時の文献が多く存在しているということである。その文献資料の一つが『万葉集』である。本講座では、世界遺産研究の一分野として、万葉研究がいかに関わるのかということ念頭に話をした。そこで、取上げたのは、女性労働である「洗濯」という労働についてである。まず、『万葉集』に洗濯という労働がどのように表われているかを紹介し、古代における洗濯の意味を考えてみた。そうすることによって、無垢を表す白の意味を逆照射してみたつもりである。

9月19日

世界遺産都市は天然記念物ワールド

－天然記念物を作る奈良公園の自然－

岩崎 敬二

奈良公園には、「奈良の文化財」として指定された世界遺産群が点在しています。その中の一つである春日山原始林は、文化財保護法によって「特別天然記念物」に指定されており、「奈良と言えば鹿」と言われて親しまれている鹿たちや「春日神社境内ナギ樹林」、「知足院ナラヤエザクラ」「ルーミスジミ（蝶）」なども国指定の重要な天然記念物として指定されて、手厚く保護されてきました。国指定の天然記念物の密度が日本で最も高い場所、それが奈良公園です。こういった貴重な自然も文化財保護法によって保護されてきたことで、奈良の独特な自然・歴史景観が保たれ、世界遺産に指定される契機となったのです。

〈3〉第13回桜井市生涯学習シリーズ・奈良大学教養講座

〈開講年〉1992年

〈テーマ〉地元密着および教養全般（混合形態）

〈募集定員〉100名

〈応募者〉79名

〈平均受講率〉59.4%

6月6日

「大和の城と文学 - 高取城・信貴山城 他 -」

浅田 隆

「お城」というものにはなぜかロマンチックなものを感じてしまうが、城が城として機能していた時代には、城は最も厳しい現実にとらわれていたはずだ。近代日本文学に描かれている大和の城について、その立地と歴史とをからめながら、作品の中にどのように描かれているかを紹介。具体的には高山右近の沢城、織田信雄の松山城、松永久秀の信貴山城、植村氏の高取城などに関わる作品、加賀乙彦「高山右近」、中山義秋「凡将の裔」、井上靖「平蜘蛛の釜」、司馬遼太郎「おお、大砲」などを紹介し、作者の個性的な表現姿勢などについても言及。

6月27日

世界経済の動きと私たちの暮らし

田中文憲

私たちはすでにグローバル化した社会に住んでいるが、それゆえに私たちの日々の暮らしは世界経済の動きに大きく影響される。その中でも、特にエネルギーと食糧問題は重要である。エネルギーに関しては、日本は石油を100%海外に依存しており、しかも中東に偏っている。日本は70年代の石油危機の後、様々な対策を打ってきたが、石油依存体質は現在も基本的には変わっていない。今ほどロシアその他からの石油、天然ガスの確保、また代替エネルギーの開発が急がれる時はない。一方、食糧も自給率が28%と先進国でもずば抜けて低い状態が続いている。国内農業政策の抜本的見直しと国際的な連携が急務である。

7月25日

電子国土と桜井

- 住民サービスの向上とは -

碓井 照子

政府のビッグプロジェクトである「国土空間データ基盤整備」は、21世紀の社会情報基

盤を築くものであり、電子国土づくりとも言われている。桜井市でデジタルシティができるのと住民サービスは、どのように変化するのか。

9月19日

香港の英語教育
-最近の動向について-

武久文代

154年間にわたる英国統治下での香港の英語教育は特異な発展を遂げて来たが、1997年の歴史的返還後の政治的社会的変動の中で大きく変革した。さらに、その後行われた指導要綱の改訂により新変革に挑む香港の英語教育の動向を分析し、日本の英語教育に資するものを提示する。

10月24日

古代桜井の豪族・阿部氏

水野正好

北方の奈良・天理市へ一直線、北上する山の辺道・上つ道、西の大阪へ一直線、西走する横大路、この2つの道の起点は桜井市阿部（安倍）。この阿部の地は古代の豪族阿倍氏の居地。多くの卓越した古墳が集中し、その被葬者が想定できる稀有の地。しかも安倍寺の建立もあり歴史学や考古学の常に注目する地である。

崇神天皇の時代、四道將軍の一人として北陸に派遣された阿倍氏の祖、大彦命は埼玉県稲荷山古墳発掘の金象嵌銘文をもつ鉄剣の銘文中にその名が見出され騒然たる話題をよんだ。阿部のメスリ山古墳の鉄弓・鉄矢、大量の武器・儀仗を副葬した姿は大彦命の墳墓を想わせる。文珠院の境内の西古墳は整然たる切石積の横穴式石室、日本で最も優美な石室。大化改新の政治をすすめたトップ、左大臣阿倍倉梯麻呂の墳墓にびたり。文珠院の本寺である安倍寺は彼の発願で建立された寺である。巨大な石室に巨大な石棺を容れる艸墓古墳、巨大な石材で構成される石室を備えた谷首古墳などは被葬者を阿部氏の人物の何れに宛てるかが実に楽しい夢ある作業。私は谷首古墳には大夫阿部朝臣大麻呂。艸墓古墳には隋使斐世清を迎えた大夫阿部朝臣鳥を被葬者に…と考えている。現地で夢みることもまた楽しい。

11月14日

中国の宗法一体化構造

蘇 徳 昌

中国社会は官僚機構と統一的信仰が一体化し、政治と文化が結合している。そして、国家と個人の間には父系同族集団及びその制度、風習が存在している。この宗法一体化構造を理解することが中国を知る一番のカギである。

〈4〉第12回都祁村生涯学習シリーズ・奈良大学教養講座

〈開講年〉1993年

〈テーマ〉地元密着および教養全般（混合形態）

〈募集定員〉60名

〈応募者〉55名

〈平均受講率〉59.7%

5月16日

「大和の温泉を楽しもう」

小 泉 泰 一

奈良県は、古来、温泉には余り恵まれない土地のひとつであったが、近年は地元「フィットネスバード」をはじめ、県内各地で公営、民営を問わず温泉開発が活発にすすめられ日帰りでも楽しめる温泉施設が各所に設けられている。こうした傾向は全国的にも言えることであるが、その背景としてバブル経済の崩壊で低料金でも温泉を楽しむことのできる温泉施設への人気が高まってきたこと、地方自治体はその活性化対策や高齢化社会に対応するための健康、福祉施設の拡充に積極的に取り組んできたこと等々があげられる。

奈良県内でもここ数十年の間に各市町村で温泉の堀削、施設建設がすすめられ、気軽に楽しめる温泉施設が32市町村に53か所存在するに至っている。

これら大和の温泉のすべてを検証しつつ、温泉のもつ魅力、温泉の有効適切な利用について一緒に考えてみたいと思います。

5月30日

江戸時代公慶上人の東大寺復興

水 野 正 好

聖武天皇は行基菩薩や良弁僧正たちの援助をうけ熟銅739,560斤、白銅12,618斤、錬金10,436両、水銀58,620両、炭16,656斛を用い、材木役夫1,665,071人、金役夫514,902人、材木・金知識人

計423,665人の就労を得て東大寺大仏を完成させ、つづく東大寺諸建築や多くの仏像を整えた。天下の大事業である、その開眼供養に参加した衆僧、沙弥尼、請僧併せて10,026人、まさに万僧供にふさわしい盛儀、奈良時代最大のにぎわしいイベントであった。平重衡、松永久秀による焼亡で大仏は常に膝上までを融解する重大な危機を迎えたが重源上人や山田道安の手で復原されて来た。松永焼亡後は大仏は大仏殿なく露仏であった。その余りにも痛ましい姿に発奮した東大寺公慶上人は幕府の力を得て大仏・大仏殿を再興。大仏開眼会が催される。期間は31日間、3月27日、奈良の旅館に泊った参詣人は49,054人、木津川の渡守により渡川した人数は一万余人という、大阪道頓堀の芝居は30日間見物人なし。芸人は閑古鳥に泣く。暗闇峠（くらがり峠）をこえて奈良まで人々が続きびっしり。猿沢池は鯉、鮎に参詣者の数十万人が投げ与える菓子で水面びっしり、魚浮かず鹿が食うという有様。にぎわいの奈良の一駒がみられた。奈良に活気と華やかさがかえった一刻であった。

6月13日

「人生の最期をどこで、どう迎えるか」

大町 公

戦後、日本人の平均寿命は、男78歳、女85歳まで延びた。医療の急速な進歩のおかげである。これにはいくら感謝してもし過ぎることはない。

他方、ますます増える高齢者は、現代日本のかかえる最も深刻な問題の一つである。高齢者を家庭で介護することは可能なのか。近年、高齢者介護を社会的問題と見なし、〈介護の社会化〉が進められ、施設や制度の充実がはかられている。結構なことである。

しかし、高齢者問題は、同時に高齢者自身の生き方の問題である。病院での〈延命医療〉は〈尊厳ある死〉を保証してくれない。われわれ自身が人生の最期をどこで、どう迎えるのかをしっかりと考えておかねばならない。

高齢者に必要な哲学とはどのようなものか。有吉佐和子『恍惚の人』、早瀬圭一「長い命のために」、佐江衆一「黄落」、深沢七郎『楢山節考』などを取り上げつつ、この問題を考えていきたい。

6月27日

こころの風景と旬の感覚

山田 隆 敏

「あめ・つち・ほし・そら・やま・みね・たに・くも・きり・むろ・こけ・ひと・いぬ・うへ・すゑ・ゆわ・さる…」これらは平安時代初期の手習い歌詞である。「天地の詞（あめつち

のことば)」の一部であります。仮名48文字が重なることなく織り込まれています。文字の源は言葉。言葉の背景には自然があります。その自然の中で植物も動物もそして人間も、共にその自然の中で生きています。この詞（ことば）に漢字をあててみると、「天・土・星・空・山・峰・谷・雲・霧・室・苔・人・犬・上・末・硫黄・猿…」となります。ここに自然と向かい合い、自然を手本にしてきた先人の研ぎ澄まされた自然観と、自然との共生を受け入れてきた先人たちの瑞瑞しい匂感覚と感性が見えてきます。古くは「～京」（藤原京・平城京・平安京）以外はすべて「田居なか」と呼ばれ山紫水明の自然の風景に恵まれていました。

都祁村はとても豊かな自然に恵まれたところです。「昔はそうだったではなく、今こそ、今から」この自然の共生と「こころの風景」をしばし、お互いに考えてみたい。「温故知新」きっと何かが始まります。

7月11日

明治時代移民達がUSA内陸部に築いた『日本人街』の経緯と現状

－ユタ州ソルトレーク市を例として－

池田 碩

鎖国体制から開国へ、明治に入るとわが国の近代化は急激に進み出す。その結果欧米の文化や物質は、貿易や政治の中枢である港湾や都市域から押し寄せてきたが、一方地方の農山漁村である田舎からは逆に発展する先進国へと、多くの出稼ぎ者や移民達を労働者として送り出すことになった。

初期はハワイでのサトウキビ栽培が中心であったが、徐々にアメリカ大陸の太平洋岸へ、そのうちの一部はさらに広大な内陸部へと向かった移民達がいた。その中に、明治期の末すでに日本人の集団としてまとまり、日本語新聞を発刊、仏教会をもつ「日本人達の街」を築いた特異な都市がロッキー山麓のソルトレーク市であり、市の中心部の一角を占めていた。街は、大正末～昭和初期に全盛をむかえたが、その後種々の変転を経て、現在は4～5世の代に至っており、ほぼUSA社会へと同化し終えつつある。アメリカ人と化した日本人の末裔達の現状をたどりつつ、初期移民について考えてみた。

7月18日

「孔子と毛沢東」

蘇 徳 昌

二千年以上も中国人の心を捉えて来たのは儒教であり、三綱五常の道德規範は慣習・常識にもなっている。それに対抗して現れたのが自由・民主・平等・博愛であり、マルクス主義であ

る。孔子と毛沢東はこの両者の代表であり、水と油の関係で、相容れない。ところが、君臣・父子・夫婦の道と階級・階級闘争・共産党独裁とは実によく似ており、中国の封建性が長く続いたのも、今現在共産党政権が安定しているのも、みなこの相似点によるものと見ることができる。その中心になるのが秩序と服従である。家族の中、家族の間、君臣或いは官民の関係、みなこれに貫かれている。儒教の影響は今も根強く残っており、孔子崇拝は流行の兆しさもある。毛沢東はこれを一掃するどころか、助長・利用していると言える。中国という国を治め、成長・発展させるには孔子も毛沢東も必要なのではなかろうか。

〈5〉第17回社会学部連携講座

〈開講年〉1988年

〈テーマ〉現代日本の社会が直面している基本問題

〈募集定員〉30名

〈平均受講率〉55.8%

10月14日

男女差はどこで生まれるのか？

－遺伝決定論を越えて－

大坪庸介

最初に、空間把握能力や場所記憶などの心理課題で性差が見られること、また脳の中に性的二型を示す部位が存在することを紹介した。次に、様々な男女差を生む要因のひとつとしての母胎内での男性ホルモン（アンドロゲン）の働きについて講義した。

10月14日

つよい女性とやさしい男性

－中国南部と香港の近現代史から考える－

芹澤知広

最初に、性差への社会的・文化人類学的アプローチを説明し、とくに「アジア女性の強さ」について、学問的にはどのように考えることができるかを講じた。その後、香港映画「自梳」の冒頭部分を紹介し、「結婚拒否」、「外国人メイド」、「客家女性」など、香港と中国南部の近現代社会史における著名なエピソードから、女性の自立のイメージと実際について多角的に議論するための材料を提供した。

10月21日

生物学的性差(セックス)と文化的性差(ジェンダー)の関係

湯川 隆子

人間の性・性別について現在知られている、生殖機能や脳の機能に由来すると考えられる生物学的性(性差)と、社会規範や法律、文化、慣習によって規定されている文化的性(性差)の意味内容とその特質について、まず、具体的な現象や研究結果をあげて説明し、次いで、両者の関係をどう捉えたらよいかについて、考えるアイデアや仮説を紹介した。

【(2)に分類される講座】

〈1〉公開講座フェスタ2004
(阪神奈大学・研究機関生涯学習ネット)

〈加盟年〉1999年 〈テーマ〉いま、考古学は最高に楽しい

〈講師〉教授 水野 正好

〈募集定員〉180名 〈応募者〉178名 〈受講者〉148名

〈2〉教職員のための夏の公開講座(奈良県立教育研究所)

〈開講年〉2003年 〈テーマ〉「おくのほそ道」をめぐる海賊版な人々

〈講師〉教授 永井 一彰

〈募集定員〉50名 〈応募者〉34名 〈受講者〉33名

〈3〉奈良県生涯学習カレッジ「奈良県大学連合依頼講座」
(奈良県社会教育センター)

〈開講年〉2001年 〈テーマ〉国際観光都市のゆくえ～香港の過去と現在

〈講師〉助教授 芹澤 知広

〈募集定員〉200名 〈応募者〉122名 〈平均受講率〉61.0%

【(3)に分類される講座】

〈1〉第7回こおりやま市民大学

〈開講年〉1998年 〈テーマ〉心の豊かさ、豊かな教養を身につける
 〈募集定員〉100名 〈応募者〉84名 〈平均受講率〉81.5%

主 催：大和郡山市中央公民館（三の丸会館）・奈良大学の協力

会 場：大和郡山市中央公民館（三の丸会館） 3階小ホール

テーマ：歴史・文化や今日的課題に学び、21世紀を夢と希望に満ちた人生に

定 員：100名

開催日・演題・講師

回	開催日	講師	演題
1	6月5日（土）	教授 水野 正好	大和は歴史の檜舞台
2	6月12日（土）	助教授 三木 理史	城下町と鉄道忌避
3	6月19日（土）	教授 田中 文憲	世界経済の動きとわたしたちの暮らし
4	6月26日（土）	教授 蘇 徳昌	中国人の食文化と食生活
5	7月3日（土）	講師 栗原 麻子	古代ギリシャの家族と教育
6	7月10日（土）	教授 上野 誠	万葉びとのココロ・・・？